

8月9日神戸新聞には福谷選手の取材記事、社の挑戦(下)、笠井選手と森脇前校長の記事が掲載されていました。他の新聞



も選手や関係者への取材を通じて社高校に関する記事を掲載していただいています。本当にありがとうございます。選手一人ひとりが多くの人の思いを持って戦っていることを理解していただけたと思います。また8日の朝刊が休刊日だったことから陸上部山口選手の優勝に関する記事も同時に掲載されていました。笠井選手の記事には山口選手の話も出てきており、



寮生のつながり、お互いに刺激し合い切磋琢磨していることなど伝わったのではないかと思います。

そして迎えた初戦。選手たちは県立岐阜商業高校へのリスペクトを忘れず、選手の入替えで辞退も検討された相手校に失礼のないように、自分たちの野球をすることで応えるという気持ちで臨んでくれたように思います。私たち応援団も、バス16台(加東市バス25台)で会場に行き、誘導員の指示で

応援団席の入れ替わりを行い、30分後に試合開始というタイトなスケジュールの中、甲子園で応援できる喜びを感じながら、また相手校への配慮も考えながら試合開始を見守りました。本校は裏の攻撃でしたので、最初

は守備からです。先発は、堀田投手。ヒットを打たれましたが落ち着いた投球で後続を断ち、上々のスタートです。裏の攻撃では四球、盗塁、エラーがからみ一死三塁から福谷選手のタイムリーで先制。2回には堀田投手が連打されましたが、後続を断ちゼロに抑えると裏の攻撃で満塁から福



谷選手の2本目のタイムリーで加点。3回裏までに8点差を付ける本校のペース。後藤選手、笠井選手にもヒットが出て、打線のつながりが出てきました。下位の打順の選手たちはチャンスメイクするため四球を選ぶなど、しっかりと自分たちの役割を果たし、攻撃の手を緩めず、最終的には10-1での勝利でした。守備の面では、不慣れた球場のためたつく場面も見られましたが、徐々に慣れてくると思います。県立岐阜商業の選手たちも良いプレーを随所に見せてくれましたし、打も素晴らしいチームでした。勝利の瞬間も含め、本校の選手たちは派手な喜び方をするわけでもなく、粛々と勝利を加味しているのが遠くからではありましたが、よく分かりました。相手校をリスペクトして全力を尽くしたからこそできる態度だと思います。素晴らしい態度でした。また、県立岐阜商業の皆さんは随分と苦しい思いをされて臨まれたと思います。そのことを含めとても複雑な試合ではありましたが、そういったことも含め勝利をした本校が、頑張り続けるしかないと思っています。選手たちはそのことはよく分かっていると思いますので、私たち応援側も選手の思いを理解して応援に臨みたいと思います。次は14日に二松学舎大学附属高校と対戦します。第2試合です。調整をしっかりと元気のある試合を見せてください。また応援団は、申し込みも含めて TEAMS でのやりとりとなりますので、連絡をよく見て申し込み、一緒に応援しましょう。暑さ対策と共に感染対策にも十分注意しながら一体となって応援していきましょう。よろしくお願いします。

産経新聞 応援風景と福谷選手



同日行われていました、全国高校総体柔道競技女子48kg級に出場していた3年横山選手は3回戦で選抜大会優勝選と対戦惜しくも敗れベスト16に終わったという報告がありました。攻め続けた結果で、悔しさ一杯だったようです。お疲れ様でした。高校野球は各紙取り扱いが大きく、各紙紹介させていただきます。ありがとうございます。

朝日新聞 後藤選手と福谷選手



読売新聞 応援席、パブリックビューイング、福谷選手



毎日新聞 掘田投手、全体写真



神戸新聞 勝利の瞬間、福谷選手、掘田投手 応援団、パブリックビューイングなど



デイリースポーツ



スポニチ



ニッカンスポーツ

